

300万人以上の外国にルーツを持つ人々が生活を営んでいる日本では、1990年代半ばから「多文化共生」施策が進められてきました。

各地の自治体や国際交流協会が、共に生きる社会を目指して日本語学習の機会や生活情報の提供などを模索してきました。

現在ではすべての都道府県に多文化共生施策がありますが、神戸定住外国人支援センター(KFC)が2022年度に行った調査では、外国人住民が多文化共生施策をそもそも知らない現状が見えてきました。

また、中国残留邦人や技能実習生は地域社会・地域住民との接点がなく、孤立していることも分かりました。これらの状況を前に、私たちは何から始めていけばよいでしょうか。

## 自分のことばをつくり、つながる

このフォーラムでは、組織の内外で響き合う「多文化共生」の実現に取り組んできた講師を交え、人と人がつながり、響き合う「多文化共生」を実現する第一歩を「自分のことば」で考える時間を持ちたいと思います。

時間 13:00～17:00〈開場12:30〉

会場 ふたば学舎 2階 2-A  
神戸市長田区二葉町7-1-18

参加無料  
要申込  
(定員50名)

2.24 2024  
〈土〉

13:00～ はじめの挨拶「神戸市における多文化共生にむけた取り組み」佐々木 昇一〔(公財)神戸国際コミュニティセンター常務理事〕

### 13:15～ 基調講演

#### 「共生の場の実現にむけて」

「多文化共生」の実践の経験をもとに、歴史的なかで実際に起きた実践を参照しつつ、「共生」とはそもそも何で、どのようにあるべきなのかを考えます。

#### 金 迅野氏

かながわ国際交流財団、川崎市ふれあい館などの勤務を経て、立教大学キリスト教学研究科特任准教授。著書に『ヘイトをのりこえる教室：ともに生きるためのレッスン』（2023、共著）大月書店。



### 14:10～ 話題提供

#### 「響き合う『多文化共生』の実現をめざして」

行政を巻き込んだ外国人住民世帯への全戸調査、子どものための「第三の居場所」づくり、外国ルーツを有する職員の採用などを通じ、組織の内外でどのように多文化共生を実現してきたのかをお話しいたします。

#### 山野上 隆史氏・山根 絵美氏・三木 幸美氏 (公益財団法人 とよなか国際交流協会)

1993年設立。地域や学校とともに多文化共生の「地域づくり」と「人づくり」を推進すると同時に、マイノリティである外国人が自立できる「しくみづくり」をすすめている。著書に『外国人と共生する地域づくり：大阪・豊中の実践から見てきたもの』（2019）明石書店。



### 15:25～ ワークショップ 「自分のことばをつくり、つながる」

リソースパーソン：神戸市在住の外国にルーツを持つ人びと モデレーター：加藤 丈太郎〔武庫川女子大学〕

響き合う「多文化共生」に向けては、一人ひとりに何ができるのでしょうか。国籍、組織などの枠をこえて、神戸市内に暮らすリソースパーソン(外国人住民)の声に耳を傾けながら「自分のことば」を考えます。

16:30～ 共有と振り返り

16:55～ おわりの挨拶 金 宣吉〔NPO法人 神戸定住外国人支援センター理事長〕



お申し込み・お問い合わせ

申し込み〆切 2/17(土)

WEB申し込みフォーム

特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター〔KFC〕

TEL 078-612-2402 FAX 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net

主催/NPO法人神戸定住外国人支援センター(KFC) 共催/公益財団法人神戸国際コミュニティセンター(KICC) 後援/神戸市・神戸市教育委員会・兵庫県・兵庫県教育委員会・(公財)兵庫県国際交流協会(HIA)・神戸大学海港都市研究センター 本フォーラムは公益財団笹川平和財団2023年度「新人流時代の共生社会モデル構築事業」のひとつです。



# 響き合う

# 多文化共生フォーラム